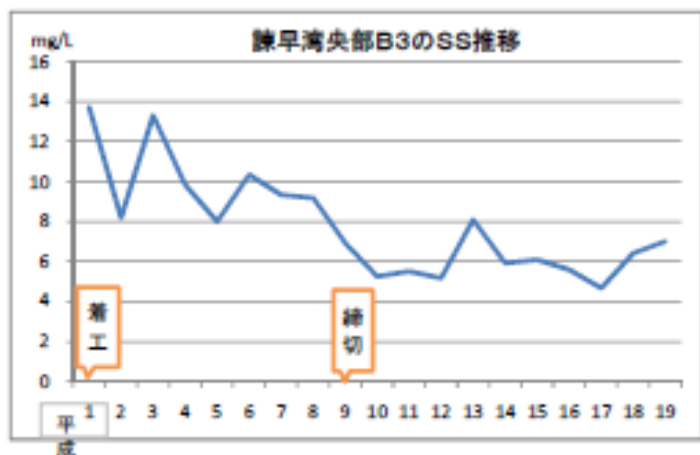


<5/22 学習会追加資料>

「締切り前後で湾内水質に変化はなかった」（農水省）はデータで否定される

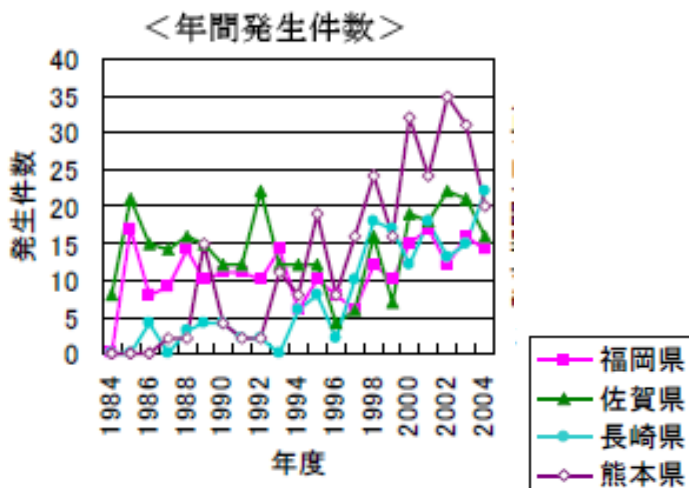


着工後からの潮流の漸次的鈍化に対応してSS（浮遊懸濁物）も減少し、そのため透明度が上昇して、諫早湾は赤潮の発生しやすい海域に変化。



締切り後の湾内環境の悪化を反映してDIN（溶存態窒素）が減少。DINの少ない諫早湾の海水が西風に乗って流れ着く大牟田・荒尾のノリ養殖の出来具合は、まさに風次第。

締切り後の赤潮「増加率」は諫早湾（グラフの青線）が他海域より著しい

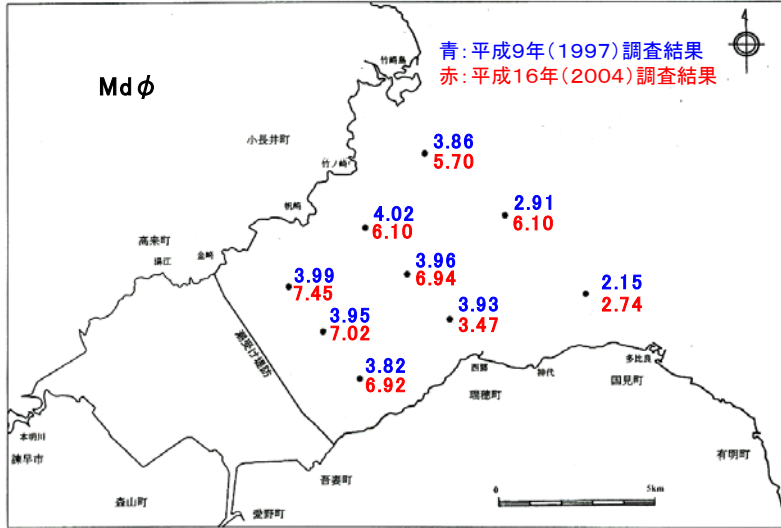


(評価委報告書から)

「締切り後に諫早湾底質に変化がなかった」（農水省）はデータで否定される

諫早湾におけるMdφの変化

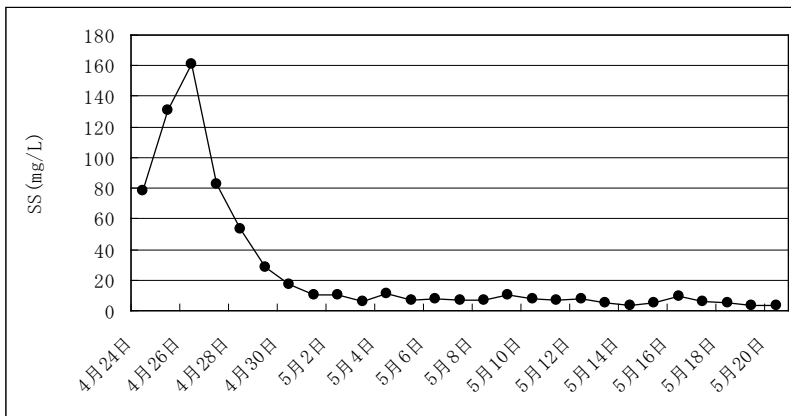
(潮受堤防完成～現在)



Mdファイの数値が大きいほど底質の細粒化が進んだことを示す

調査名:平成9年度諫早湾漁業振興基礎調査(長崎水試)
平成16年度有明海における資源生物と環境に関する調査(水産総合研究センター)

調整池水質が改善しても「開門の成果はない」（農水省）と言えるのか



短期開門でSS(浮遊懸濁物)は劇的に減少した

短期開門調査時における調整池SS濃度(B1、B2およびS11の平均値)の推移